

## 1 改訂の基本的な考え方（高学年における外国語科導入の趣旨）

中学年から外国語活動を導入し、「聞くこと」、「話すこと」を中心とした活動を通じて外国語に慣れ親しみ外国語学習への動機付けを高めた上で、発達の段階に応じて段階的に文字を「読むこと」、「書くこと」を加えて総合的・系統的に扱う教科学習を年間70単位時間行うとともに、中学校への接続を図ることを重視する。

## 2 目標の改善

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

外国語教育において目指す資質・能力を明確にした上で、各学校段階の学びを接続させるとともに、「外国語を使って何ができるようになるか」の観点から、国際的な基準を参考に、五つの領域において小・中・高等学校で一貫した具体的な目標を設定し、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。

**Point** 「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を一体的に育成する過程を通して「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を育成することが明示されている。

**Point** 「簡単な語句や基本的な表現」とは第2の2(1)に示されている語や連語、慣用表現、文を指す。

**Point** 聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通じた指導をすること、気付きを深めそれを知識理解へつなげ、さらにそれらを活用したりして伝え合うことができる基礎的な力を育成することに留意する。

## 3 学習内容の改善・充実

・知識及び技能については、実際に外国語を使って用いた言語活動を通して、外国語の音声や文字などについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、「読むこと」、「書くこと」に慣れ親しみ、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」による実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けさせるようにする。

**Point** 英語の特徴やきまりに関する事項として、言語材料が示されている。言語材料については目標達成するのに適切なものを選択して理解させる。

**Point** 言語材料を個別に指導するのではなく、言語材料と言語活動を効果的に関連付けて指導する。

**Point** 文字については、文字の名称を聞いてその文字を選んだり、文字を見てその名称を発音したりできるように指導する。また、文字の細部を指導するのではなく、コミュニケーションを行うために文字を書くことを確認し、他の文字と区別して認識できるように丁寧に書いたり、適度な速さで書いたりすることを意識させる。

**Point** 実際のコミュニケーションで活用されるような600～700語程度の語彙を扱うが、全てを覚えて使いこなさなければならないというのではなく、受容語彙と発信語彙があることに留意する。

・思考力、判断力、表現力等については、具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどを表現することを通して、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができるようにする。

**Point** 言語活動を行う際は、単に繰り返し活動を行うのではなく、児童が言語活動の目的や言語の使用場面を意識して行うことができるよう、具体的な課題等を設定し、その目的を達成するために必要な言語材料を取捨選択して活用できるようにする。

## 4 学習指導の改善・充実

・言語材料については、発達の段階に応じて、児童が受容するものと発信するものがあることに留意して指導する。

**Point** 文法の用語や用法の指導を行うのではなく、言語活動の中で用いられる表現として聞いたり話したりして活用できるようにする。

・「推測しながら読む」ことにつながるよう、音声で十分に慣れ親しんだ語句や基本的な表現について、音声と文字とを関連付けて指導する。

**Point** 読むこと、書くことについては音声で十分に慣れ親しませることから指導する必要がある。

・文及び文構造の指導に当たっては、文法の用語や用法の指導に偏ることがないように配慮して、コミュニケーションの中で基本的な表現として繰り返し触れることを通じて指導する。

**Point** 単元終末段階の児童に望む具体的な姿のイメージをもち、実態に応じて単元を見通した課題設定をする。

**Point** 機械的な練習にならないよう、多様な言語の使用場面を設定したり、既得の語句や表現を使用して、会話を広げるよう促したりする。

**Point** 各学校で設定した学習到達目標を踏まえ、児童がコミュニケーションを行う目的や場面、状況などを意識して学習に臨むことができるよう、どのような言語活動を行うのかを明確に示す。